

海陸里程

(キロ)

酒造組合 味噌醬油醸造組合 酒問屋組合 陶硝子組合 乾物商組合 漆器荒物
 商組合 小間物商組合 呉服商組合 金物商組合 履物商組合
 其他同所は協賛會より配布する小樽案内以外に當區の經濟事情を窺知するに足るべき統計十數種を載せたる小冊子を内地方面よりの來賓に贈呈する筈なりと云ふ

海陸里程

當區を基点とし全道重なる町村に至る里程及び内外樞要港間航路哩數並に貸金表は左の如し

札幌區	五里間 九〇八・三〇	釧路町	四里間 四〇、一九・四〇
函館區	六七三・〇三〇	室蘭町(俱知安ヲ經テ)	四里間 四六、三五・〇〇
福山町	九三、一五・〇〇	釧路町(綱圭ヲ經テ)	一三三、一七・三六
福島町(函館ヲ經テ)	八八、一二・三〇	厚岸町(釧路ヲ經テ)	一四八、一三・〇〇
江差町	八六、二六・四〇	伊達村	三九、〇〇・〇〇
岩内町	一九、一四・二〇	上磯村	七〇、三三・四〇
		根室町	一五三、〇二・〇八
函館	二二八	室蘭	二九七
		増毛	四九
		留萌	五六

燒尻	七八	天賣	七八	鬼鹿	六六	苫前	七五
羽幌	七七	初山別	八九	遠別	一〇〇	天埴	一〇八
仙法志	一一六	杵形	一二二	鬼臨	一一九	鴛泊	一三〇
香深	一三〇	船泊	一四二	稚内	一四八	厚田	二三
濱益	二九	石狩	一六	神惠内	五六	釣懸	一一九
江差	一四六	壽都	七六	岩内	六九	茂生	二九
余市	一八	古平	二三	網走	二九三		

府縣要港哩程 (單位哩)

大坂	一、〇〇〇	尾道	一、一三二	横濱	七六四
長崎	九二九	土崎	二七五	四日市	九六六
新潟	三八〇	門司	七五五	伏木	四七一
荻津	四七九	直江津	四三三	宮古	三八五
口津	九六八	マカ	三三八	下ノ関	七七五
神戶	一〇一五	殿原	八三八	基隆	一、五二七
敦賀	五五三	青森	三三〇	多度津	九一〇
博多	八三五	能代	三三〇	那覇港長崎ヲ經テ	一、二三七
				鹿兒島ヲ經テ	一、四六〇

海陸里程

(キロ)

郵船賃船表

(R11)

境	六二〇	酒田	三二五	唐津	八四七
哥爾薩克	三三〇	夷田	三七四	七尾	四六〇
宮津	五七八	濟田	六八九	船川	二七〇
▲外國要港湮程 (單位湮)					
香港	二二三九	新嘉坡	三六三兩	仁川	一、三三八
ペートロポロスク	二、二六八	元山馬關ヲ經テ	一、二五五	龍動	一、二、四、五五
マニラ	二、三三〇	浦鹽斯德ヲ經テ	七九〇	浦鹽斯德	四三〇
天津	一、七三五	パンクペー	五、二九二	桑港	四、六二〇
布哇	三、六一一	メルホルン	五、六二九	上海馬關ヲ經テ	一、三六四
バナマ	八〇二〇	ニコライスク	七三〇	横濱ヲ經テ	一、六七四
シヤートル	五、二八四	牛莊	一、六七五	釜山馬關ヲ經テ	八九〇
大連	一、三二五	秘露カークラオ	八、七七五	大坂ヲ經テ	一、三三〇
		太沽	一、四六五	智利ウアルパレイソ	九、四二五
				芝罘	一、二八〇

郵船賃船表

小樽港基点 (三等)

函館二圓、青森二圓九十錢、荻ノ濱四圓、横濱五圓五十錢、四日市七圓、神戸八圓五十錢、増毛一圓二十錢、留萌一圓五十錢、天賣一圓七十錢、燒尻一圓七十錢、鬼脇二圓三十錢、駕泊二圓六十錢、香深二圓九十錢、稚内三圓五十錢、枝幸四圓九十

錢、雄武五圓五十錢、紋別六圓三十錢、常呂六圓七十錢、網走七圓十錢、斜里七圓五十錢、九春古丹四圓、マウカ六圓、

但一等客は三等客の三倍、二等客は三等客の二倍、四歳以上十二歳未満は半額

社外船賃表 (三等)
函館二圓、青森二圓五十錢、船川四圓、酒田四圓五十錢、佐渡五圓、新潟五圓、直江津五圓五十錢、伏木六圓、敦賀七圓、馬關八圓、横濱五圓五十錢、東京同上、兵庫八圓、

濱益一圓二十錢、増毛同上、留萌一圓四十錢、鬼鹿一圓六十錢、苫前一圓九十錢、羽幌二圓二十錢、初山別二圓四十錢、遠別二圓六十錢、天鹽二圓九十錢、天賣一圓六十錢、燒尻一圓六十錢、鬼脇二圓、駕泊二圓三十錢、仙法志二圓五十錢、沓形二圓六十錢、香深二圓六十錢、船泊三圓、稚内三圓、江差四圓、紋別五圓、湧別五圓四十錢、常呂五圓八十錢、網走六圓、古平七十錢、美園八十錢、入舸一圓、來岸一圓二十五錢、余別一圓三十錢、コルサコフ四圓、大泊四圓、マウカ五圓、野田山六圓、九寸内七圓、三等の五割増、

氣候の地當

氣候の地當

(R11)

▲小樽の溫度 雪は十一月より降りて翌年四月に融解し、積量五六尺を程度とす、氣温は冬季の最低攝氏十八度、夏季の最高同八十三度位にして、冬季は朔風凛烈膚に徹することあるも、春季は急變の徴ありて、惠風飴蕩袂を拂ひ、五月上旬より中旬に掛け梅も櫻も亦桃も一時に咲き亂れ、殆ど半歳を白雪玲瓏の裡に送る、當地人々は言ひ知らぬ感を與ふる候なりとす、夏季の溫度は比較的高昇するも、日中暫時の間にて朝夕は眞に凌き善く、秋季紅葉の霜に飽きて、滿眸恰も錦を織り出す迄山光水色の明媚なること殆ど本洲と異なる所なし、特に百花爛熳たる春季に於て青嶺僅かに残雪を止め、坐ながら雪月花を賞し得るが如き、蓋し本洲にも優るの風情なる可し。

名所古跡

▲防波堤 瞰下一瞥、港内に横はる長堤、堤端に赤色の燈臺屹立し、大小船舶を擁せる遠望宛然三保の松原にも似て壯觀を極む。
 ▲手宮鐵工場 手宮町に在り、北海道鐵道管理局の附屬にして、木工、鐵工其他の各部に分れ、常に鐵道用の貨車、客車、諸汽罐の組立及修繕に従ふ。

▲住吉神社 量徳町に在る縣社にして、慶應元年七柱の神を合祀す、位置高燥、境内廣く櫻樹に富み、眺望佳絶形勝の地なり、又宮司星野氏園藝を好み、邸後に植物園を設け、名木珍花を培養す、壯嚴なる社祠を拜して花卉に親しむ、亦一層の風情あり。

▲奥澤天満宮 區内奥澤村に在り、慶應三年新地町に創立、去る二十七年現地に遷宮を行ふ、苔滑かなる岩清水を掬ひ、暫し仙境に遊ぶ銷夏の地。

▲龍宮神社 稻穂町に在り、二十九年和田津美の神を祀る、眺望佳なり。

▲手宮稻荷神社 手宮裡町に在り、享和三年保全神を祀る。

▲水天宮山 區の中央、堺町通りに在り高丘地、安政三年水天宮を祀るに因り此名あり、附近に人家楡比すと雖も、頂上廣潤にして、余市街を一眸の裡に收む、肩摩轂擊熱鬧の巷を離れ、吹き送る海陸軟風を浴び、雄大なる水陸自然の美を賞するに好個の別天地。

▲龍徳寺 新富町に在り、曹洞宗に屬し、安政の頃建立境内廣く樹木繁茂し、園地の景趣に富む、或る人曾て龍徳寺十二境を審み不關門(山)鯨吼堂(鐘)覺皇殿(木)理證宮(金毘)雲華庵(書)大悲閣(舍利)龍蟠池(本堂前)翠烟堤(山門左右の堤畔)紅雲路(境内櫻樹多に楊柳多きより)に楊柳多きより

を極む心字湖(後園の池形)洗心瀑(後園の瀑布)臥龍洞(後園に洞窟あり洞窟落葉は森乎たるに因みて)と曰へるも仲々に面白し。

▲景徳寺 入船町に在り、眞宗大谷派に属し、安政六年山の上町に建立、去る三十四年現地に移る。

▲正法寺 稻穂町に在り、曹洞宗に属し、二十六年山形縣より移轉せり。

▲淨應寺 手宮裡町に在り、十三年の建立にして眞宗大谷派に属す。

▲本願寺別院 開運町に在り、眞宗本派にして、安政五年新地町に建立、明治七年現地に移る。

▲天上寺 入船町に在り、淨土宗に属し、十五年開運町に建立、二十三年現地に移る。

▲直行寺 稻穂町に在り、淨土宗に属し、二十二年前代議士金子元三郎氏の建立に係るを以て、一名金子の寺とも云ふ。

▲淺草觀音寺 稻穂町に在り、天台宗に属し、三十七年京都より移轉す、展望佳絶の地。

▲公園地 花園、手宮の二ヶに所在り花園公園は共進會場上手に位せる高丘地に

して、二十八年の設計に係り、面積約十方坪、綠林鬱蒼として晝尙暗き銷夏の適所あり、或は頂上の廣場より全市街を瞥見し、遠く海を隔て、雲煙模糊の間、石狩の對岸を望む邊り、彼の詩人山陽が「雲耶山耶」も斯くやと許り、其雄大なる風光、人をして轉た恍惚たらしむ、手宮公園は、手宮裡町の高丘地に設けらる、三十五年の設計にして、其面積花園公園の半に達せず、隨て規模狭少なりと雖も、巨木鬱蒼銷夏に適す。

▲戰捷紀念碑と分取端艇 區會の認可を得當區南濱町山本久吉氏は花園公園内に單獨日露戰捷紀念碑を設置す、敷地千二百有余坪を有し工費一万餘圓を投じ四ヶ年に涉り竣工せしものにて巨松岩石之を奥澤に需む世俗之を山本遊園地と云ふ、又同公園頂上に赤ペンキの端艇を見るならん、渠は日露役の終極例の露艦ノーマックが樺太港に遁竄の砌り我艦に追窮せられ自滅せし其内の遺物を某艦より寄贈せられしものなれば参考の爲め一見するの價値あるべし。

▲金澤動植物園 花園公園より區役所裏手をぬけ、稻穂小學校に沿ひ行くこと一町餘にして舊金澤動植物園に達す、園は卅七年漁業家金澤某の設計に係り、面積一万五千餘坪を有し當時動物園には熊、豹の猛獸を始め、珍らしき動物を飼育し、又

た植物園には有らゆる珍木異草の四時艶を競ひ美を争へるのみならず、高地に位するを以て風光明媚なりしが、其後火災に罹り未だ回復するに至らず、小樽名所の一を失ひたるは返すくも惜む可きことにこそ。

▲**稻穂博物館** 當園は小樽有志二十有餘名の出資を以て組織せし者にて稻穂町中央商品館の西側にあり本年七月一日より開場し娛樂に供するの傍ら博物學上の智識を普及せしむる爲め諸種珍奇の古器物、鳥獸類、同上刺製品、盆栽類、史上に關係ある活人形等を陳列し公衆の觀覽に供す其建物中六角堂樓上は海陸の景趣に富み市街熱鬧の地に於て一の閑雅幽邃なる遊覽所なり。

▲**手宮石碑** 手宮町海岸斷崖に刻める奇跡の記號にして明治十一年榎本子爵等の發見する所碑は風餐雨蝕に逢ひ微かに字跡を認め得るのみなるが、字形はコロボツク古代の文字なりと云ひ、一説には石器時代の墓標なりと唱へ、或は支那古代の文字と稱せられ、諸説紛々未だ定まれるを聞かず、因に其全文は寫して東京帝國大學に保存すと。

▲**赤岩溫泉** 區の西方一里許り赤岩の地に在り、泉質鐵を含み貧血、呼吸器病、癩麻質斯、皮膚病、子宮病、疝氣等に特効ありと稱せらる、旗亭には水友館あり、

樓屋は山を負ひ、海に臨むを以て眺望の佳絶言はすもかな區内よりは、海陸の便あり、一浴不飽の眺めに精を養ふも佳なる可く、若し夫れ月明の夜、潑瀾たる鮮魚を割いて、太白を汲まん乎、忽焉として羽化登仙の思ひ有らしむ。

▲**高島の辨天島** 高嶋村沖合にして、北海道水産試験場(高島村)附屬水産調査所の在る所、専ら魚介の生理的調査を爲し、又本場は主として漁撈及製造に關する試験を行ふ。

▲**神威岬** 小樽灣の西北端に突出する一岬角を神威岬と稱す、土語に「カモイ」は神靈の義、岬端を距る二百間の波上に大小の二岩あり大なるを「おかもい岩」小なるを「めのこ岩」と唱へ、又た岬より五百間の沖合遙かに巨巖の波上に現はるゝを見る高さ十四五丈に達し其狀宛然衣冠を正ふせる巨人の直立するに似たり、アイヌは之を崇めて神と爲すとかや、今は岩上に燈臺あり、往昔此地より以北、婦女子の進入を許さざりしが、文化十二年に至りて幕府其禁を解きたりとなん。

▲**立岩** 堺町海岸に屹立する孤石、其形奇なると、往昔土人に山緒在るを以て名有り。

▲**穴瀧** 區内奥澤村に在り、行程三里、飛沫煙霧を置めて濛乎たる裡、遙かに展

望の勝あり。

▲神居古潭 小樽の西方二里餘にして神居古潭の勝地あり斷巖絶壁環繞四周し纒かに蒼天を仰くのみ喩へは井底に坐して凡夫を窺ふか如く、狂瀾怒濤巖を噛み岸を洗ふの狀、實に北海の壯觀たるを告げす流車の巖下を過ぎり、潭上を疾走するとき覺へず毛髮悚然たるの感あらしむ、此外札幌中間は、錢函の海水浴、輕川の温泉等おれは序を以て清遊を試むるも可なるべし。

▲北海道賦

吉田松雨

蜻蜒洲中寶庫島	地勢如鵬搏蒼昊	北隣魯國四三韓	海波拍天望浩渺
今茲明治十五年	我偶來遊北海邊	函港東去鞭四馬	馬蹄過處多壯觀
或見沃壤數千里	草漠々兮與天咫	又見大河幾十派	水淼々兮與海似
八十餘日西又東	始知山海其利豐	珍珠長鯨出海底	巨林良鏹滿山中
地北韓四十度外	四時之候自然備	地比緯度寒較輕	天至夏月暑反熾
六百里程道路長	人烟稀少原野茫	墾開知可得良田	千葦空歎屬荒涼
君不見歐羅巴洲々	北國氣候不順地鹵瘠	不關氣候與地味	寸土尺地悉開拓
農者孜孜勵鋤耕	開成玲瓏巴里城	工人汲々勉製造	築成壯宏倫敦京

况是此地本肥沃	氣候順和灌溉足	何不墾以作桑麻	何不耕以種麥粟
嗚呼我國如今貨殆殫	治財之術頗困難	使此寶庫歸荒廢	豈可不慨可不歎
唯願志士拓此地	永使山海無遺利	捕鯨探珠海渺漫	墾礦伐材山幽邃
山林運去千頭牛	海物輸來萬隻舟	好將寶庫財貨富	普及蜻蜒六十州

八景十二勝

▲小樽十二勝 桂陵散史曾て十二勝を遺ふ其記に曰く▲赤巖游鷗 祝津沿岸赭壁翠崖の巉然として海に聳ゆるを赤巖と呼ぶ、陽春波靜かなるの日沙鷗翔け集まり泛々として游戲するの狀宛から畫中に在て觀るが如し▲高嶋漁歌 高島は古來土謠に縁みて名有り、北海四月魚龍の波を瀾するの交に方り、欸乃棹歌遠近相和す亦これ一勝なり▲花園嬉春 花園公園は天狗嶽の麓に在りて、遠く石雁一帶の翠螺を波瀾に望み近く余市の風煙を眼下に眺む、皆な絶景たるを失はず、花時遊人最も多く釵光帽影後先相逐ふ、其樂みや想ふ可きなり▲波堤峭帆 一堤端を麗岬角に起し、斜めに小樽灣中に斗出するを防波堤と爲す、布帆正峭堤を隔て、徂徠するとき、高きに登りて之を望む、趣き殊に多し▲宮阜涼月 市塵熱鬧の間に小樽あり、水天宮阜と

呼ぶ、夏夜尤も涼を趁ふに好し、清風徐るに來りて白紵を翻す處ろ、水紉一揮忽ち銀盤の水天に躍るを見る、直ちに廣寒宮中の人なり▲勝川驟雨 勝納川は舊小樽の地域に屬す、驟雨沛然、水波俄かにさゝめくの時、觀特に奇なり、若し夫れ一天雨晴るの餘、高砂橋頭夕照を帯びてイみ立てば、更らに風趣の掬す可きものあらむ▲龍德清梵 高砂橋南に寺あり龍德と云ふ、晚霞綺を散じ鳥も時に歸らんとするとき忽ち樓上半杵の鐘を聞く、此間一蒲團を乞ふて詩禪に參す、亦可ならずや▲月陵吟 蟲月陵又た桂ヶ岡と呼ぶ、織山(中央小樽驛の上)一帶の地にして、莊司稜堂の名つくる所なり、月明午の如き夜、蹠で幽逕に到れば、啼蟲四方に起り品々たる露華また皆な響あるを疑ふ、予靜淵翁と結隣こゝに住し、籠前燈下坐ろに之を聽く、曾て苦吟の相似たるを憐みずんばあらざるなり▲蘿溪霜葉 蘿溪は奥澤の陽に在り、土人ライオナイ澤と呼ぶ、山機霜杼滿目錦繡を織り成すの交、一瓢を腰にして探討せんか、白氏の所謂春にあらずと雖も、自ら醉貌の佳を覺ゆん▲天宮奇跡 天宮海角崖面に鳥跡の印せるあり、昔時沿岸穴居の土人に依りて爲られたりと傳ふ、其點劃の奇蒼韻蚪蚪の文と雖も以て加ふるなし、人あり風雨晦冥の夜扉を燃して之を讀めば、まことに鬼哭の啾々たるを聞かんなり▲神居驚濤 北海勝區神居古潭と呼ぶもの二、一は上

川に在り、一は鏡函小樽間に在り、共に神斧鬼鑿の妙を怪巖峭壁の面に見る、而も彼は奔流激端を以て鳴り、此は狂瀾怒濤を以て轟く、其冬初一度風伯の怒に逢ふや騰湧澎湃潮水渦を亂し、忽ちにして雷吼へ、忽ちにして雪墮れ、天を拍ち、岸を碎くの勢ひ特り前者を凌ぐのみならず、實に天下の偉觀なり▲狗嶽晴雪 市背龍巖勢ひ衆山を壓するを天狗嶽と呼ぶ、夜來の風雪拂曙より晴れ、滿目玲瓏、曠曠たる紅日と相輝映するとき、遙かに玉樓銀海の側に在て望む、誰か壯觀ならずと言はん

▲小樽八勝 添田靜淵曾て八勝七絶を賦す左の如し

搏桑擎出海曠紅。狗峰摩天豨半空。瑞氣成煙雪成玉。碧霄映出白玲瓏。
 峰巒擁海水成灣。日看輪船幾往還。傑閣朱欄春笛遠。萬壙煙罩綠波間。
 欸乃聲中月氣腥。夜山載雪影冥々。卜知滿海鯉魚躍。漁火搖波萬点青。
 竹榻湘簾好納涼。江清月近夜方央。一痕水上蟬娥影。碎作金鱗入海洋。
 秋入梧桐暑氣和。晚間曳杖穗峯阿。胡枝花亂露將滴。處々幽叢蟲語多。
 山村雨漲苦難晴。料識明朝溪水生。夜色溟濛看不見。唯聞人語渡橋行。
 梵宮現出翠微巔。霜瓦月殘籠曉煙。忽有鯨鐘海雲吼。一聲驚破萬家眠。
 正見櫻花爛熳時。遊人幾處競春嬉。昇平有象萬民樂。拍手齊唱君代詞。

狗峰豨雲

天宮煙橋

高洲漁火

勝川涼月

稻溪秋蟲

奥澤夜雨

海雲曉鐘

花園春遊

小樽八景の國詩

小樽八景に因める國詩八首あり即ち左の如し

墨の江のやしらの松の月影は、いく秋てらす光りなるらん
(佳吉秋月) 佐藤 而堂

いくづしの岬の波の音たれて、いさり火くらき夜半の雨哉
(祝津夜雨) 實相寺利民

いろ内の濱に嵐の吹きよせて、見するは浪の花にそ有ける
(色内晴嵐) 藤野 靜輝

後るれと見つゝ、行かなん濱中や、夕日にたゝむ眞砂路の浪
(濱中夕照) 粒羅 彪

秋去ればおさりの浦の月影を、つはさにかけて落ちる雁音
(朝里落雁) 菅谷 則男

海士小舟今歸るらし夕まくれ、帆影數そふ石狩の海
(石狩歸帆) 星野 實臣

山寺のみのりの聲にさそひきて、心もすみぬ入相のかね
(妙龍晚鐘) 大竹 元一

きのふより今日は眺めもまじけなる、高嶺の雪の匂ふ夕晴
(増毛暮雪) 高田 増平

八景常盤津

戀の重荷の、石狩へ、歸る白帆の、一イニウ三イ四ウ、いつか耻かし、袖屏風、夕日照りそう、濱中の、濱の眞砂路、長々と、思ひの丈を、假名書に、頼む玉章、かしく文、君と連理の枝かはし、比翼の鳥となるならば、嬉しい仲ぢやないかいな、お前百まで、わしや九十九まで、ともに白髪を生へるまで、ヨイヨイヨイヤサ、二人仲好くすみよしの、縁を結ぶの、神詣で、跣足まゐりや、お百度に秋の夜長の、

戀衣、やつれがちなる、烏羽玉の、戀の暗路をなぶるのか、晝を欺く、長月の、月の光も、あんまりな、あれ耻しい、ほつれ髪、思ひ入目の、夕空に、聞くも身にしむ妙龍の、鐘は悟の、うらおもて、柳は緑、紅の、花も目に立つ、艶姿、かざすや梅の花笠に、咲揃ひたる、櫻笠、重ね扇の、末廣に、舞の手ぶりの、風薫る、うぢぞ床しき、色内の、積る口説の、晴嵐も、嬉しい首尾の初御見、そらどけかゝる雲の帯、結立髪もしくづしの、しつぱり濡る、夜の雨、思ひまじけの、あけくれに此まゝ消ゆよと、謎かけて、つもるなさけの、雪の肌。(二三子)

追分節の由来

忍路高島は神威岬以東の地にして、彼の人口に膾炙する松前追分。

忍路高島及びはないが

切めて歌葉磯谷まで

なる俚語は、今の小樽支廳管内好個の漁業地、即ち前記忍路高島の兩村を讀込されたるものにして、之を三絃に和して謠ふ時、交通不便を極め、一國を越すにさへ、妻子眷族に水盃を交はせし時代に於ける、綿想別離の切情に想到し轉た悲哀の感を

起さしむ。

抑も此曲の由来は、往昔源九郎義経蝦夷一會長の女に昵み、別れを告げず満州に赴く時其女追慕して神威海角に到るも及ばず、悵然として戀人の乗船を望み、果ては身を顛はして慟哭す、呪ふて曰く、和人の船にして、婦女子を載せて此地を過ぐるあらば、則ち覆没せしめんと、遂に化して石と爲る、後人其石を崇めて神威巖と名づけしと云ふ、神威は土語にて尙「神」と云ふが如し、之れより本洲の船、復た婦女を載せて海角以東に入らず、忍路、高島は其角東に、歌葉、磯谷は其角西に位す、追分の曲故に云ふ、幕末の臣織部の正堀正隠函館奉行となるや、慨然として曰く、生育殖養は天道なり、天孫の裔、豈に蝦夷の地に殖す可からざるの理あらんやと、乃ち大艦に婦女を搭載し巨礮を放ちて神威の海角を過ぐ、本洲人の本道に移れるもの此に始されりと傳へらる、當區其地と相接し、古來因縁淺からざるを以て茲に採録す

旅館及旗亭

區内の旅館は枚擧に遑あらずと雖も就中創業尤も古きは第一火防線の土門旅館とし設備の良きを以て鳴るは越中屋及びキト旅館とす、今其重なる旅館を紹介すべし。

▲キト旅館 色内町にあり中央小樽驛に近く建築は和洋折衷にして客室三十有余

函館キト旭川キトと共に本道の三キトと稱せられ當區有数の旅店として設備亦其盛名に背かず(電話百十五番)

▲越中屋旅館 色内町にあり當區旅館中の最優たるものにして亦本道に於ける大旅館なり、建築は宏壯美麗なる和洋折衷にして客室六十有余を有し其設備殆んど間然する處なく特に其洋式食堂及玉突場は頗る宏大なるものにして、之を公開し何人と雖も隨意に娛樂し得るが如き館主の用意到れりと云ふべし(電話二十五番)

▲角キ旅館 住初町に在り、小樽驛の下通りなるを以て、旅客の利便云はん方なし、全館は開業後數年にして、前記の二旅館に比し日尙淺しと雖も、客室の清潔料理法等最も衛生を重じ、勉強と誠實とを以て客を迎へ、其待遇の懇切なる毫も營利的の取扱ひに涉らざるは、館主の注意克く店員に体せらるゝが爲めなる可く、尙館主秋山氏は硬骨なる土地賣買、金銭貸借の仲立業者として夙に其名を知らる(電話四) ▲角十小川旅館 海岸通り南濱町に在り、主に船客を取扱ひ日本郵船會社船客取次所として名あり、客室二十余を有し、設備又殆ど遺憾なく、食膳の美味と器具の良好とは全店の特色として知らる(電話五百四十三番)

▲敷島旅館 一昨年新築以來客室の設備完へ加之客に接する丁寧親切なるを以て中等客に歓迎せらる。

▲角土門旅館 色内町にあり明治の初年頃より繼續して斯業を営み区内に於ける最古の旅館として知らる客室三十有餘調理待遇兩ながら遺憾なし(電話六三〇番)

▲山半旅館 色内町にあり区内に於ける雇人口入業の鼻祖として知らるのみならず營業の方針は、敢て流行を追はず只管確實を旨とし専ら旅客の利便を計らんとに努む。

▲曲平越後屋旅館 色内町にあり海岸波止場前に位するを以て船客の投宿多く、特に中央小樽驛に遠からず、乗船乗車孰れも便利なり(電話五百十一番)

▲小嶋旅館 永田町角にあり小樽停車場に近きを以て旅客の利便多く、開業の久しきと時流を追はず只管確實を旨とするに依り名あり(電話三百四十三番)

▲山千加賀屋旅館 色内町にあり波止場に近く中央驛に近きを以て乗船乗車客の利便とする處あり客室二十七を控へ空氣の流通と避災に便利なる地なるにより何れの旅客も満足する處にして掲て加へて主公の穩厚と番頭の忠實なると女中の深切なるとは本館の特長なるべきか(電話五百三十一番)

▲北辰館 中央停車場前の左側にあり近來の新築にて待合を兼ね設備完全取扱親切と清潔とを以て船客に歓迎せらる。

其他中央驛附近に散在するは日本館、信濃屋、植木屋、中央館、新潟屋、江州屋、越後屋、角大鈴木屋、角忠松嶋屋、丸一廣島屋、曲二村田屋、角定旭屋、曲ヨ小松屋、角丸柳瀬屋、丸正大泉館、山キ山田屋、曲ノ能登屋等にして小樽停車場附近には曲キ秋山屋、大坂屋、酒田屋、中西屋等あり高等下宿屋としては色内町常盤館、稲穂町錦館等十數軒あり何れも設備完全にして客に接する丁寧深切なるにより聞ゆ。

▲料理店亦其數頗る多きも就中名有るものを列舉せば大畧左の如し

▲開陽亭 山の上町に在り海岸の高地に位せるを以て眺望の佳絶なること云はずもかな、調理亦粹を聚め當區一流の旗亭なり。

▲色内亭 堺町字妙見町に在り同亭も高地に位地を有するを以て眺望佳絶月明の夜恰かも黄金を碎けるが如き波亂を望み潑瀾なる鮮魚を味つて太白を汲むに好個の場所なり。

▲中嶋屋 同町に在り、特筆すべき自然の眺望なしと雖も、客室の宏麗なると斯かる營業に珍しき迄確實なるを以て知らる。

▲菊水 住初町に在り殆んゞ鳥料理を以て専門なる丈其調理亦賞するに足る。
▲迎陽亭 花園町水天宮山の麓に在り位地高燥にして眺望佳絶、調理亦味ふに足る。

▲梅の屋 堺町字妙見町に在り色内最古の旗亭にして鰻料理の元祖なり。

▲みどり 花園町に在り鶏料理を以て知らる調味亦賞するに足る。

▲天東 色内町に在り天ふら専門美味に安直が呼物なり。

▲東郷庵 稻穂町に在りそばやとして料理を兼ね加之輕便主義なるを以て名の奇

なると共に日増に隆盛を極む。

▲千歳 妙見町に新築移轉したるが得意の鯉こく料理は舊に倍し安直でやるとの評判。

▲丸松寶亭 妙見町にあり東京麴町寶亭本店で多年洋食料理の腕を磨きし爲めか

其調理恐らくは小樽斯業者の畏怖し居らるゝにても知らる同亭は家屋新築設備完全

せしにより日本料理の需めにも應せらるゝ等折衷料理店としては青遊を試むるも一

興ならん。

▲美吉亭 色内町西谷回漕店裏手にあり海岸に接するを以て海産商並に海員の客

筋多く尤輕便に洋和お好の調理に應ずるとは亭主五十嵐助右工門の自慢話其他花園町には日吉亭、春の家、東寄、名家、小よし、一二三、高田屋、松の屋、百足屋、初音、櫻屋等の旗亭各所に散在せしを以てお好に任せ青遊を試むるも一興ならん。
▲精養軒 色内町にあり區内西洋料理店中創業最も古く調理亦賞するに足る。
▲高橋ビヤホール 花園公園通りにあり當區斯業の元祖として知らる。
▲常盤ビヤホール 南濱町棧橋前移民休憩所樓上に在り船客の待合を兼ね、娛樂には玉笑場の設備あり。

花柳界

花柳界の内容を窺ふは不粹の記者の能はざる處なるも歌妓の見番は本支店併せて九店あり▲町見番本店(花園町十四番地)▲町見番分店(入船町三二番地)▲末廣見番(堺町電)同分店(堺町二八番地)▲色内見番(色内町一〇番地)▲稻穂見番(稻穂町一四番)▲同分店(稻穂町通リ)▲新見番(花園町一四番)の八ヶ所にして大小四百有餘の美妓艶を競ひ特に一藝に長するもの少なからず、旅情を慰むに足る名妓を侍せしめ北海名物の追分節を演唱せしむるも亦一興なるべし今各見番に就て大小の歌妓を紹介せば左の如し

▲末廣見番

△本玉の部 りつ、小金、才三、友吉、百々、玉子、小雪、かよ、いね子、小榮舞鶴、なつ、たき、お福、いく、榮藏、琴次、留八、小松、三勝、權太、お京、年子、福助、丈八、繁松、花子、千代子、とく、峯子、源平、柳、富士子、六助、三吉、勝子、あや子、糸磨子、仲子、梅奴、梅勝、べ八、松助、小六、
△半玉の部 菊子、力彌、つや子、八重子、小僧、おむつ、てる子、てまり、春子、

▲末廣分見番

△本玉の部 市松、小高、糸吉、千代吉、梅吉、染吉、小三、君子、壽吉、北司駒助、秋子、一八、繁子、清子、義太夫政子、つな子、愛子、小筆、末松、廣治仇吉、柳、春駒、金太、べ子、君勝、仲助、義太夫小黒、六助、島吉、染子、小仙、千吉、久松、關彌、桃子、子寶、奴、照子、色子、圓太、小久、
△半玉の部 牡丹、於多福、富子、花子、勇、りん子、福助、元子、信子、小奴八重子、金子、やねぎ、千代松、金龍、光子、春子、高子、いち子、
▲色内見番

△本玉の部 初、小つま、加乃、松助、小松、幸、玉治、茶良子、一二三、文子琴治、奴、源平、頼子、太郎、仲子、辰子、三福、梅次、宇佐子、喜代次、五郎、初音、玉恵、金吾、丸子、二八、静子、君子、浪子、榮龍、源治、かほる、幾松、濱子、春子、小糸、今吉、小金、金福、定奴、駒次、小市、勝次、福助、よし松、元吉、義太夫駒之助、小圓、福壽、愛吉、小常、綱吉、福奴、龜子、手遊、艶子、淺子、雪松、若松、銀治、

△半玉の部 定子、京、雪子、玉子、小喜代、龍子、おかつ、千代子、金時、小玉、よし子、留子、蘭丸、萬歳、愛子、筆子、時子、おかめ、福丸、いろは、

▲新見番

△本玉の部 春子、藤八、小蝶、千代治、吉彌、勝子、秀子、開花、奴、小豊、小てつ、おかめ、小菊、みね、お京、玉子、豆子、
△半玉の部 ちよん子、高子、ぼん太、

▲稻穂見番

△本玉の部 ちよ子、小市、小いく、三子、島吉、家橘、はじめ、小杉、小金、頼子、八重子、力松、小三、一二三、駒助、吉子、鈴子、小竹、福市、春吉、菊

丸、一六、ぼん太、文子、奴、小鐵、勝枝、小ヱ、都、小春、米八、仲吉、花吉

高助、手遊、綾子、繁子、貞子、由松、ベ吉、

△半玉の部 琴治、市子、ます子、かん平、福平、歌子、

▲稻穂分見番

△本玉の部 柳子、照子、梅子、三福、若子、十八、小光、幸、市松、三吉、

△半玉の部 すいめ、かほる、仲子、

▲遊廓地は入船町の奥にあり仲の町羽衣町京町辨天町の五街に分れ鯉川樓、南樓、大入樓等大小の雛軒を並べ盛に涎客を迎ふ▲手宮遊廓は本年の開始にして大文字樓を筆頭いるは、姿等大中の雛十數軒を並べ朝夕源平を送迎し陰に陽に南郭に競争せんとするの状態なるが目下建築中に屬するもの五七軒計畫中もの十數軒ありと云へば全部竣工の上は優に北郭を凌駕するに至るべし。

劇場

小樽に於いて劇場の設けられしは最も古く實に明治元年にあり即ち同年芝居町に劇場星川座の建設せらるゝあり斯くして明治六年入船町に劇場末廣座の建設せらるゝ

ありて明治の初年は長く星川末廣兩座のみなりしが次第に小樽の發達するに従ひ二十四年山の上町に劇場住吉座建設せられ翌廿五年には手宮裏町に手宮座の設けらるゝあり廿六年には稻穂町に稻穂座設けられ卅四年砂崎町に小樽座の設けらるゝ等幾多劇場の相ひ對峙せしを見しも一盛一衰優勝劣敗の風潮はある者に隆盛を興へある者を没落せしむる等幾起伏の間現時は唯だ稻穂座の改稱せし大黒座と住吉座との二劇場を數ふるのみ。

▲住吉座(電話六十三番) 同座は明治二十四年山の上町に設立せられたる劇場にして廿九年遊廓の大火に類焼してより現時の位置たる花園町通りに改築したるものにして座主は岩瀬佐吉たり末廣座凋落し星川座瓦解したる後と雖も依然として住吉座の名聲を失はざるもの一に氏經營の巧みなるが爲めたらずんば非ず看よ多年の辛苦經營空しからず今や小樽の劇界は大黒座住吉座の對峙にして小樽を面分して雄を馳せつゝ敢へて他人の端倪を許さざるにあらざるや盛なりと云はざる可らざるなり。

▲劇場大黒座(稻穂町十五番地 電話七百七十番) 劇場住吉座と相ひ對比し好劇場として名を知らるゝを稻穂町に於ける大黒座と爲す同座は固と稻穂座と稱せしも三十七年八月札幌大黒座々主若狹謙吉氏之を譲り受けて小樽大黒座と改稱せしものにして同座の施設は一

に支配人黒澤源雄の手中に在り同氏は世の風潮を察し時好を見るに敏に同座が開場毎に大入を占むるもの洵に黒澤支配人の敏腕に歸せざるべからず蓋し新劇に舊劇に將た際物興行に開場毎に其の配合を誤らざるは抑も同座の忽ちにして名聲を馳せたるの所以にして併せて斯界に於ける成功者たる所以たらずんばあらず。

前記劇場の外区内に於ける興行寄席は五亭にして其の位置名稱左の如し

▲壽亭 壽亭は区内に於ける寄席中の隨一にして建築の新らしさと設備の宜しきとを以て四時の興行來客多く毎常大入を占めつゝあり亭は片山大平の經營する處にして稻穂町十四番地第一火防線通りに在り。

▲幸館 同亭は建築新らしく其の設備又完全にして区内寄席中一二を争ふの席亭なり所有主は大沼虎吉亭は花園町十六番地に在り。

▲小樽亭 同は手宮裡町にある席亭にして手宮方面に於ける唯だ一の亭なり主として労働者を定客として四時最も盛況を極めつゝあり亭主は小澤辰美。

▲恵比須亭 同亭は稻穂町畑十五番地にある寄席にして明治四十年八月の新築に揚り区内寄席中一二を争ふ亭主は上野良助なるが同氏は寄席の外稻穂見番本支店を管理す(電話四五二番)

附 札幌しるべ

札幌區は當區を距る九里余にして小樽驛を發し約一時間半にて達す、全地は本道十一州の首府にして一望際涯なき石狩原野を東北に扼し、西に手稻、藻岩の群山連亘し、豊平川其南東を界して東北に流れ、白石、豊平、藻岩、琴似、札幌の村落に擁せられて、東西三十三町、南北二十町に亘り、其面積千五百二十五町歩、町數三百二十五を有す、市街の區劃は整然として宛かも碁局の如く、而も街衢の廣濶なること殆ど全國に冠絶する所なる可し、市の中央より東西に貫きたる一帯の廣衢は、火防及逍遙の地にして、之を大通りと稱し、創成川は其南北に流れて排水に便にす、大通より南北に數へて南一條、北一條と稱し、又創成川より東西に數へて東一丁目西一丁目と云ふ。

抑も全區が稍々市街の体裁を形造りしは、實に明治四年にして爾來三十七星霜、往時は詳ならざるも、安政の交には密林鬱蒼として荆棘徒らに蔓り、狐狸熊熊擅に出沒徘徊し、數戸の土民と、二戸の移住民在りしに過ぎざりしが、明治二年開拓使を創設せらるゝに方り、此地を以て政務綜攬の府と定め、官舎の營造僅かに成りて榛

葬を削除し、亞で道路を開鑿し、全四年始めて市街を區畫し、函館地方より商人二十余戸を移住せしめ、其他の來住者を合せて漸く二百十余戸に達し、略は市街の体裁を爲せり、之を全區の創始と爲す、越て五年政府の築造、道路の修築、河流の改修、製造工場の官營等、事業頻りに起り市況著しく昂進せり、爾來事業界は勿論政務上に於ても弛張變遷なきに非ずと雖も、漸次順況に發展して今日の隆盛を見るに至れり。

現時市街の配置は概ね大通を界とし、南部は商業地にして、北部は官衙、學校、會社等散在せり、而も商業地の中樞と目す可きは南一條乃至南五條通にして、銀行及各種商賈酒樓等の多くは此間に集れり、又停車場に下車して南方一直線西三丁目通は、俗に停車場通と稱し、南部の中樞に優れる繁華の地にして、旅店の類はみな此界限に在り、元來全區は開拓創始より本道政治の中心にして、亦學術技藝の淵藪たり、且つ地區廣濶にして山水の幽邃なると、風光の雄大なるは、自然に人の性格に良好なる感化を與へ、住民は敦朴の間新進の氣鋭に富めり、殊に開拓使時代に於て諸種の工業を官營したるの歴史は、斯業の進歩發達に資するもの多く、將來は本道教育の淵源、工業の中心たるを疑はず、是を以て戸口の増加は著しき勢ひにて、現

今戸數一万數百、人口六万數千に過ぎずと雖も、往を以て來を推さば、今後十年を出すして人口十四五万戸を算する大都たるを見る可し。

今左に全區内及附近の重なる名所其他を紹介して遊覽の資に供せん。

▲中島遊園地 園は區の南端に在り、位置高燥にして豊平川の大流其中部を貫流し、背後に藻者の翠巒屏を連ね、天然の風光に富む、園内の滑池に小舟を浮べて旗亭に酒杯を呼ぶも佳なる可く、又園の一隅に岡田花園あり、庭樹亭々として積翠滴らんとし、泉石淙々響耳を洗ふ可く、各種の盆栽と温室の花卉は、四時爛熳として其艶を競ふ、又園の東南に北海道物産陳列場あり、本道水陸の産物は勿論、内外各國の参考品を蒐集し、斯業獎勵と本道の産業を紹介す、然かも公園としての設備は未だ全からざるもの有るを以て、全區は之が經營に着手し、現に其設計中なりと。

▲札幌神社 官幣大社にして市街を距る西方二十五町の、藻岩村字圓山の丘陵に在り、明治二年の創設にして、大國魂命、大命牟知命、小彦名命を祀る、境内閑雅にして松杉參差たる間に櫻樹点綴し本道に於ける小嵐山と稱して、花時觀賞の客甚だ多し。

▲黒田伯銅像 區内大通西八丁目に在り、去る三十六年の建設に係り、像は高く

石層の上に安置さる、此地は火防を兼ね道邊の地として經營されたるものにして、幅員六十間、延長約五百間に亘り、彼の雄姿颯爽たる銅像と共に、眺望頗る佳なり

▲東北農科大學 區内北八條西七丁目に在り、綠林蔭濃の處、宏壯なる白堊の建築にして、明治五年東京芝増上寺内に假學校なるものを設け、教師を内外に仰ぎて育英の端を開きたるに起因し、全八年之を現地に移し、札幌農學校と稱したりしが昨年九月より東北帝國大學農科大學となれり、校舍は三十二年六月に起工し越て三十六年七月に竣工せるものにして其建坪二千四百余坪、敷地の面積三万四千三百三十余坪を有し、目下豫科講堂の増築中にして本年九月迄には竣工の豫定なりと、尙本學の學科は農學、畜産、農藝、化學、林學の五科とし、別に大學豫科及農學實科を置くの外、目下過渡時代に在るを以て、舊制の土木工學、林學、水産學科及農藝科あり。

▲農事試驗場 北海道農事試驗場は農科大學第二農場の地積に介在し 明治四年國費支辨の創立に係り其成績見る可きもの多し。

▲植物園 園は農科大學の附屬にして區内北五條西八丁目に在り、面積三万四千百余坪を有し、本道及内外各種の植物を栽培す、園内に温室及博物館あり、温室は

暖國産の植物を培養し冬期植物學研究の科に供し、又植物生理の實驗場とす、博物館は本道産の動植物及舊土人「アイヌ」の製作又は使用に係る諸器物を蒐集し、學生研學の用に供するを以て目的とすと雖も、本道物産の概況を知らしめんが爲め、毎週水、日の兩曜日には温室と共に公衆の縦覽を許せり。

▲豊平館 區内大通西一丁目に在り本館は來遊外賓の接待又は宿所に充つる目的を以て、明治十四年開拓使の設立に係る、館は洋風四層樓 建坪二百十五坪、工費四万七千余圓を投じたるものにして、其の庭園は規模宏大、泉石の配置頗る宜ろし十四年 聖駕北巡の日、本館を以て行在所に充てさせられ、爾來其名遠近に知らる

現今は御料局札幌支廳の管理に屬し、私人に貸付して常に西洋料理を營む。

▲北海道廳種畜場 全區を距る南方二里、豊平村字真駒内に在り、明治九年開拓使の施設に係り、展望佳絶なる藻岩山の南麓、清絶掬す可き豊平の河畔に位し、地形自然に一寰區を爲し、本道唯一の好牧場地なり。

此他著名の工場には帝國製麻會社札幌支店(北七條東)大日本麥酒會社札幌支店(北二東)全製麥所(札幌村大字)等あり。

▲重なる商賈 區内の重なる商賈を擧ぐれば、今井合名會社、向井呉服店(洋物)一

柳商會、高桑商店(英物)塚島商店(雜糖)五番館(内外)秋野藥店及丸、金物店等なりとす
 ▲重なる旅館 区内の重なる旅館を挙げれば、山形屋、丸物、佐野屋、中村屋、一久、丸新、角定、角大、加藤等にして何れも設備の完全と確實とを以て知らる。
 ▲重なる旗亭 区内の重なる旗亭を挙げれば、幾代、東京庵、西の宮、東壽し、松月等にして何れも和洋の調理を爲す、又西洋料理の専門としては豊平館等あり。
 ▲劇場及寄席 劇場には大黒座、札幌座ありて年中演藝の絶間なく、又寄席には札幌亭、南亭、開進亭あり。
 ▲重なる病院 病院は區立札幌病院、北辰病院、逸見病院、正見病院、吉田眼科病院、北海眼科病院等なり。
 ▲當區重なる各公官衙並諸會社諸工場等を列挙して参考に供せん。
 北海道 廳 北海道帝國鐵道管理局
 札幌稅務監督局 札幌鑛山監督署
 札幌地方裁判所 札幌郵便局
 同區裁判所 札幌稅務署
 札幌警察署 札幌支廳

名	稱	所在地	營業目的
御料局支廳			札幌區役所
札幌憲兵分隊			札幌高等女學校
糧秣廠派出所			第二十五聯隊(豊平村)
札幌中學校			北海中學校(私立)
北海道師範學校			札幌女子職業學校
赤十字北海道支部			愛國婦人會支部
北海道農會			北水協會
北海道蠶糸協會			札幌商業會議所
北海道鑛業會			札幌女子職業學校
▲札幌區銀行會社調			
株式會社北海道拓殖銀行		大通東一ノ二	拓殖事業ノ資本供給
株式會社北海銀行		南一條西三	一般ノ銀行事業
株式會社北海道銀行札幌支店		南一條西一ノ一	一般ノ銀行事業
株式會社北海道貯蓄銀行		大通西四ノ一	貯蓄銀行條例ニ依ル銀行業

株式会社帝國銀行札幌支店
 北海電氣株式會社
 札幌倉庫株式會社
 北海倉庫株式會社
 札幌工作株式會社
 札幌精米株式會社
 札幌製粉株式會社
 魚印株式會社
 北海道鐵道貨物運送株式會社
 合名會社三井物產札幌出張所
 帝國製麻株式會社
 大日本麥酒株式會社札幌支店
 內國通運株式會社札幌支店
 共成株式會社札幌支店
 北海タイムス合資會社

南一條西三ノ三
 大通西二ノ七
 北四條西二ノ一
 北五條西一
 北四西四ノ一
 北五條西五ノ二
 北六條西七ノ二
 南六條西一ノ一
 北五條西二
 北二條西一
 北七條東一ノ一
 北二條東四番外地
 北四條西三丁目
 大通東一ノ三
 大通西四

一般ノ銀行事業
 水力ニ依ル電力電燈ノ供給及電氣器械販賣
 倉庫營業及貨物運送
 同 上
 諸器械農具設計製造修繕並ニ鐵材供給其他鐵工ニ關スル一切ノ事業
 精米並玄白米及雜穀委託賣買業
 粉類麵類製造販賣小麥ノ試作
 魚菜類ノ委託競賣
 貨物運送業
 物品販賣仲買運送代辦倉庫製材及製造業
 麻糸及麻粉織物漁網等ノ製造加工並麻ノ栽培且是物ノ物品ノ賣買
 麥酒ノ釀造販賣及之ニ關聯スル營業
 貨物運送及保險
 精 米 業
 新聞及印刷業

合資會社札幌木挽所
 札幌鹽販賣合資會社
 合資會社岩井商店
 札幌石材馬車鐵道合資會社
 北海道牧畜合資會社
 丸小印下駄小間物合資會社
 合資會社赤星商會
 丸井今井合名會社
 一の秋野合名會社
 一タ高桑合名會社
 北海道農蠶合名會社
 札幌炭酸水合名會社
 札幌酒造合名會社
 北海道石材株式會社
 北海道耐火煉瓦合名會社

北一條東四ノ一
 南一條西四ノ二〇
 南一條西二ノ一六
 南二條西六ノ一
 南七條西一ノ二三
 南一條西二ノ四
 南二條西二ノ一二
 南一條西一ノ六
 南二條西一ノ一二
 南二條西一ノ九
 南三條西五ノ一八
 北五條西八ノ一
 南三條東五ノ一
 豊平村大字豊平
 南五條西八ノ五

木材挽削賣買委託賣買換寸軸木小國木地製造販賣建築請負
 官據販賣並委託販賣合資會社
 靴製造販賣及物品供給請負業
 石材採取販賣及馬車鐵道貨物運送業
 牛馬豚繁殖及販賣
 下駄小間物卸販賣
 官廳會社用達雜貨商
 與服大物洋物諸雜貨及醬油味噌釀造業並金物類諸官衙諸物品請負供給
 藥種賣藥醫療器械及材料其他諸物品
 荒物雜貨漆器類其他物品販賣
 蠶 業
 石狩國平岸村宇定山溪豊平川御料林内ニ湧出スル天然炭酸水ヲ採酌販賣
 酒類醸造業
 石材採掘賣買委託販賣並運送業
 耐火煉瓦粘土陶磁器土管類製造販賣

▲當區工場調

名	稱	主要製品
大日本麥酒株式會社札幌工場	麥酒	
博光社工場	活版印刷	
北海タイムス社工場	新聞發刊	
重谷木工工場	挽割材	
北海道耐火煉瓦工場	耐火煉瓦	
赤心堂工場	活版印刷	
札幌機械工場	汽機汽罐	
札幌酒造工場	清酒燒酎	
共成精米工場	精米	
文榮堂工場	活版印刷	
後藤木挽工場	挽割材	
北海石版工場	石版印刷	
北海道新聞工場	新聞發刊	

名	稱	主要製品
藤澤精米製粉工場	精米製粉	
陽明堂	石版印刷	
植田精米工場	精米	
札幌製粉工場	小麥粉製造	
札幌精米工場	精米	
山藤工場	活版印刷	
鎌田工場	活版印刷	
札幌木挽工場	木材挽割	
北海道製麻工場	亞麻織物	
河内硝子工場	硝子器	
野澤工場	印刷製本	
北海道電氣工場	電燈電力供給	

▲區内會社銀行調 自四十年六月新設ノ分 至四十二年三月

名	稱	所在地	營業目的
合名會社	於福堂	南條一西四ノ二	活版印刷、製本及製菓子業
北海道馬匹獎勵株式會社		北二條東一ノ二	牧場、競馬場ノ設置内外馬賣買
札幌石材馬車鐵道株式會社		南二條西六ノ一	石材採取販賣、土木建築勞力請負及運輸業
札幌肥料株式會社		北四條西一ノ二	人糞ノ賣買及各種ノ委託販賣
札幌木材株式會社		北五條西六ノ三	木材事業及建築請負
株式會社	泰北銀行	大通東一ノ二	銀行事業
北海道アセチレン瓦斯株式會社		南三條西五	アセチレン瓦斯供給及器械器具販賣
日本興業株式會社		北二條東一ノ二	鑛山採掘販賣及山林ノ造成
北海道罐詰株式會社		南六條西一ノ三	魚類果實類野菜類ノ罐詰
札幌銅鐵株式會社		北三條西三ノ一	銅鐵地金及建築用諸金屬販賣
札幌運輸株式會社		北三條西三ノ一	物品ノ運送請負取次荷爲替業

明治四十一年七月廿六日印刷
明治四十一年七月卅一日發行

定價壹冊金四拾錢

著述者兼 發行者 浪越重隆

印刷人 櫻井巳之松

發行所 札幌區大通西三丁目八番地 博光社

印刷所 札幌區大通西三丁目八番地 博光社

賣捌所 小樽區電話交換局向 信文堂

株式會社小樽米穀取引所仲買人

不 稻積豊次郎

電略(一イ)又ハ(一)
電話 六 番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

可 宮嶋駒次郎

電略(カ子〇)又ハ(カ)
電話 二二三番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

㊦ 近藤忠太郎

電略(コ)
電話 六四五番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

ヲ 小倉伊作

電略(ヲ)
電話 五四八番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

宮 鈴木長五郎

電略(スス)又ハ(ス)
電話 九六九番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

五 佐々木佐次郎

電略(ササ)又ハ(サ)
電話 三五六番

小樽區入船町一番地

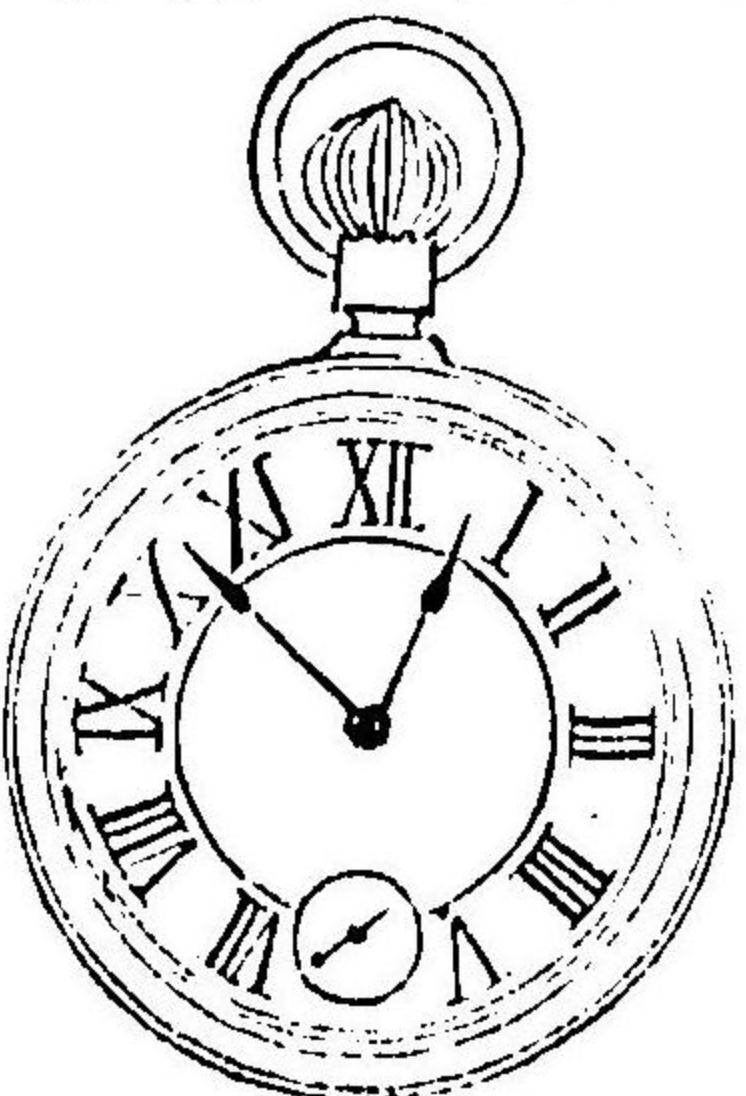
小樽木材株式會社



全勝納事務所
第一勝内工場

電話 九二三番

各種時計及寶石入指輪
並ニ眼鏡ハロメル船用磁石
其他附屬品各種



小樽區色内町
(色内橋詰)

松田時計舖

菓子種一切
製造販賣
水車製粉業
誠實勉強
出荷迅速

五

小樽區稻穂町五番地
岡部留五郎第二工場

電話 架設中

塩谷停車場下

岡部第二工場

小樽區色内町四十六番地

岡部販賣部

電話 架設中

●最新式 練ノ粕壓搾器
●新案改良 酒造用壓搾器

製造發賣所

小樽色内町十二番地

諸機械
製造所

濱田鐵工場

株式會社小樽米穀取引所仲買人

大嶋宗太郎

電略(リ)
電話三三三番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

上 荒川嘉兵衛

電略(アラ)又ハ(ア)
電話二六〇番

株式會社小樽米穀取引所仲買人

三星嘉太郎

電略(三水シ)又ハ(三)
電話三五四番

日本郵船株式會社船客切符發賣所

全 旅 加 賀 屋

小樽區色内町棧橋前通

千步

電略(右衛門)
電話(五三一)番

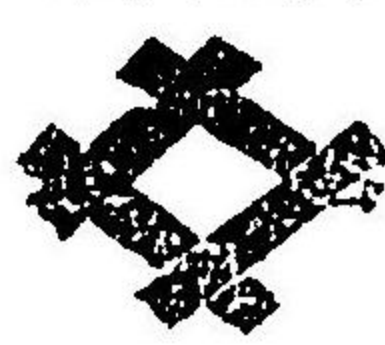
弊館は波止場前にして中央驛へ接近の地なり

藥品賣藥
繪具食料紅
紙函販賣

小樽區堺町三十三番地

妙見町通大盛堂

羽前鶴岡
肥兒丸
特約店



井上信義

來り觀よ
盲生啞生の學ぶ有
様を

教育展覽會及水産共進會を機とし
市中休暇中特に授業をなす

住吉前
小樽盲啞學校

銘酒 北靈の鷹 釀造販賣元

小樽區稻穂町七



酒 造 店

電話五〇三番
發電器(△)

各國産品卸 問屋

小樽區色内町

天 永山彰商店

電話(七二番)電略(ナ)

市内電柱廣告元扱

⑤ シヤンピンサイダ一手販賣

東京富士印石蠟發賣元



雜貨 商 印 笹田支店

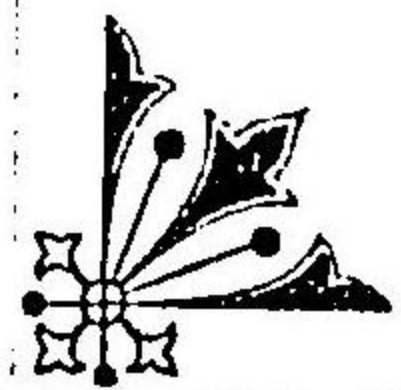
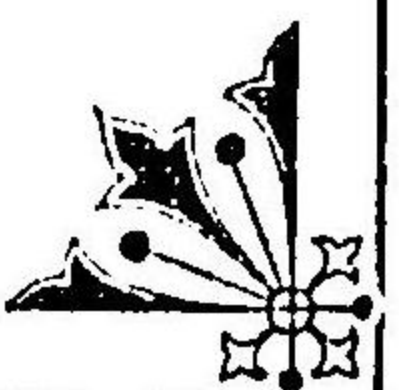
小樽區稻穂町大通第三火防線

旅館

小樽停車場前

小嶋旅館

電話 三四三番



新築
落成 高等旅館

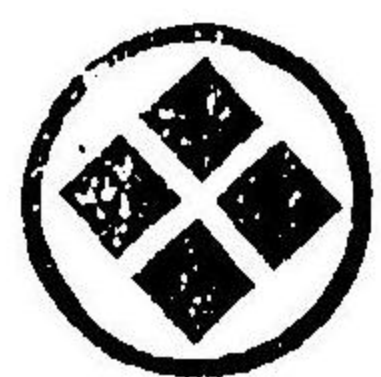
吉

札幌區大通西四丁目
加藤長九郎

電話 三三七番



劇場



大黒座

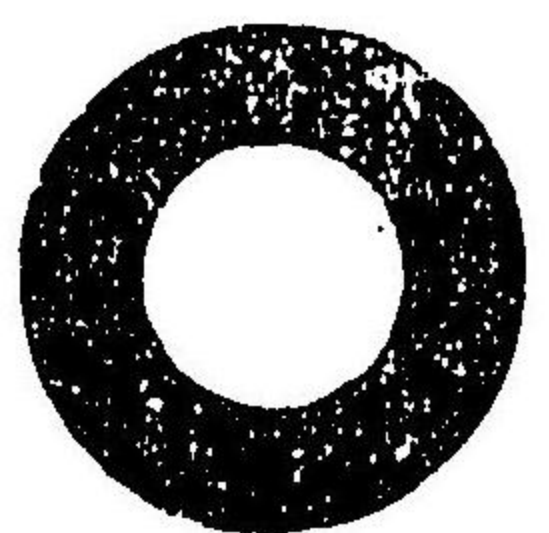
小樽區稻穂町

座主 若狭謙吉
管理人 黒澤源雄

東京淺草

公園地

第六區二號地



蛇の目

壽

と

支店花園町十六番地

茶紙文具



雜貨問屋

小樽色内町十四番地郵便局向

早川商店

電話 一八番

同區同町三十五番地

早川支店

電話 三一九番

同區入船町六番地

早川商店

電話 九〇二番

小樽區稻穂町十四番地

菊地商店

營業品目

荒物、乾物、洋酒、
罐詰類販賣

區内ハ店員ヲシテ御用達セシム

鳥御料理

妙見町

千登勢

電話 五二六番

茶紙

小樽區色内町十六番地

池田合名會社

電話 (四六五番)

問屋

提灯類
雨傘類

小樽區色内町四十番地

石田提灯店

第三火防線上リ掛

諸國

小樽區色内町貳番地

商人

石田屋旅館

御宿

字妙見町脇

とまや

業專子菓

小樽區住初町角

屋張尾

樓上定席

亭福於

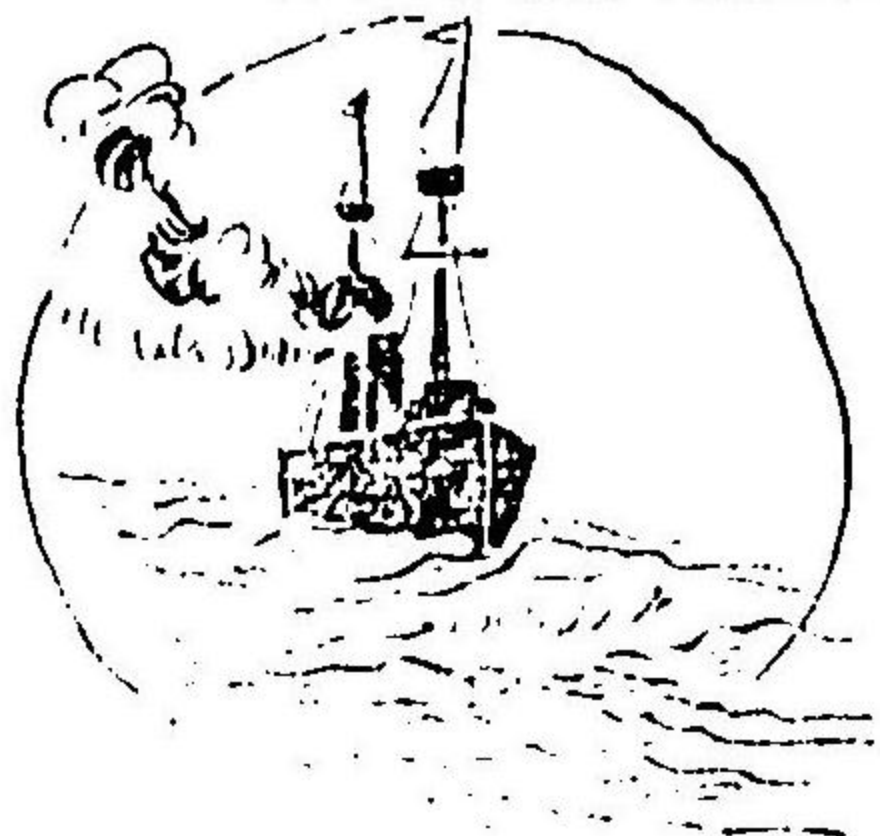
劇場

小樽區花園町

住吉座

座主 岩瀬佐吉

電話六十三番



御料理店

さくら家

小樽區第二火防線通

電話 一六二番

位置

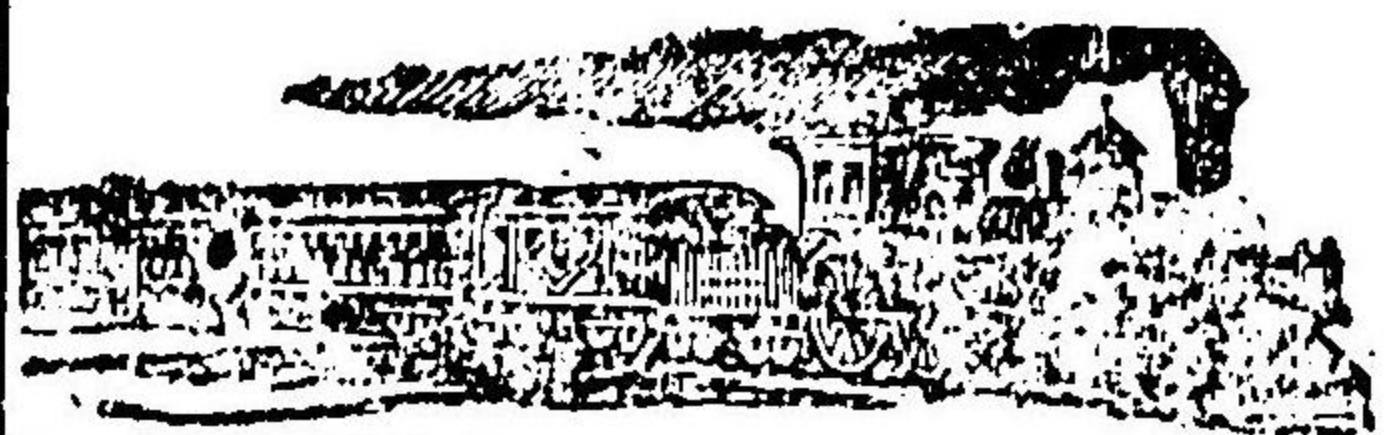
小樽市街ノ中央ニシテ中央小樽停車場ト汽船
波止場トノ又々中央ニシテ山海ノ眺望好ク汽
車瀛船ノ御待合セニ好適セリ

客室

増築落成最モ清潔ニシテ御風呂ノ設備アリ

料理

清鮮美味而シテ御輕便ヲ旨トシ弊店ノ獨特ノ
松茸めしアリ



羅紗毛織物洋服製
造販賣及毛皮賣買

陸海軍
警察官
諸官衙

御用達



浦井高等洋服店

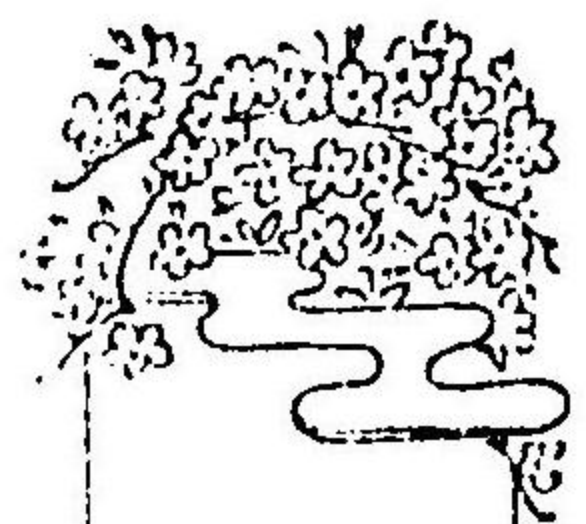
小樽區色内町十六番地

電信略號(ウセ)

北濱町三丁目四番地

株式會社小樽魚市場

魚菜類委托問屋



御料理

眺望佳絕
客室清潔
調理美味

花園町一番地

迎陽亭

電話七二八番



25

698

海運業

太三

藤山汽船部

小樽區北濱町六丁目一番地

電話 三九四〇四番

船舶諸器械
製造及修繕

合名
會社

藤山鐵工所

小樽區稻穂町七番地

電話 二五〇番

用の確からる實用品の商標

多用者の多き日本第一化粧品

CLUB WASHING POWDER.

トットレイト等島

粉洗クラブ

MADE of the Milk-powder, Cre-
more, Eggs and Soap-powder.
Highly perfumed by Violet-essence,
White-rose, Musk and Jockey
Club-essence.

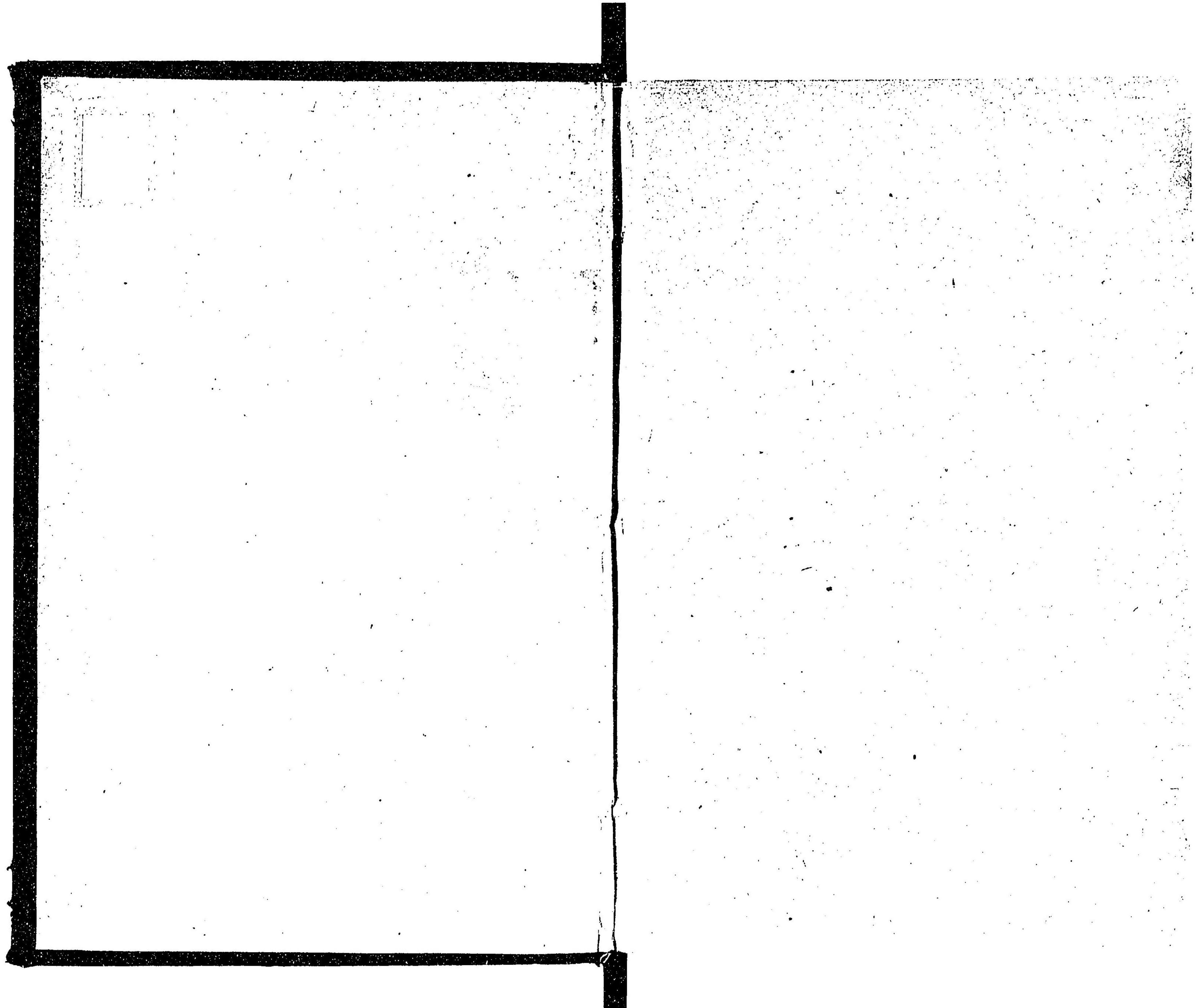
For whitening and beautifying
the skin.

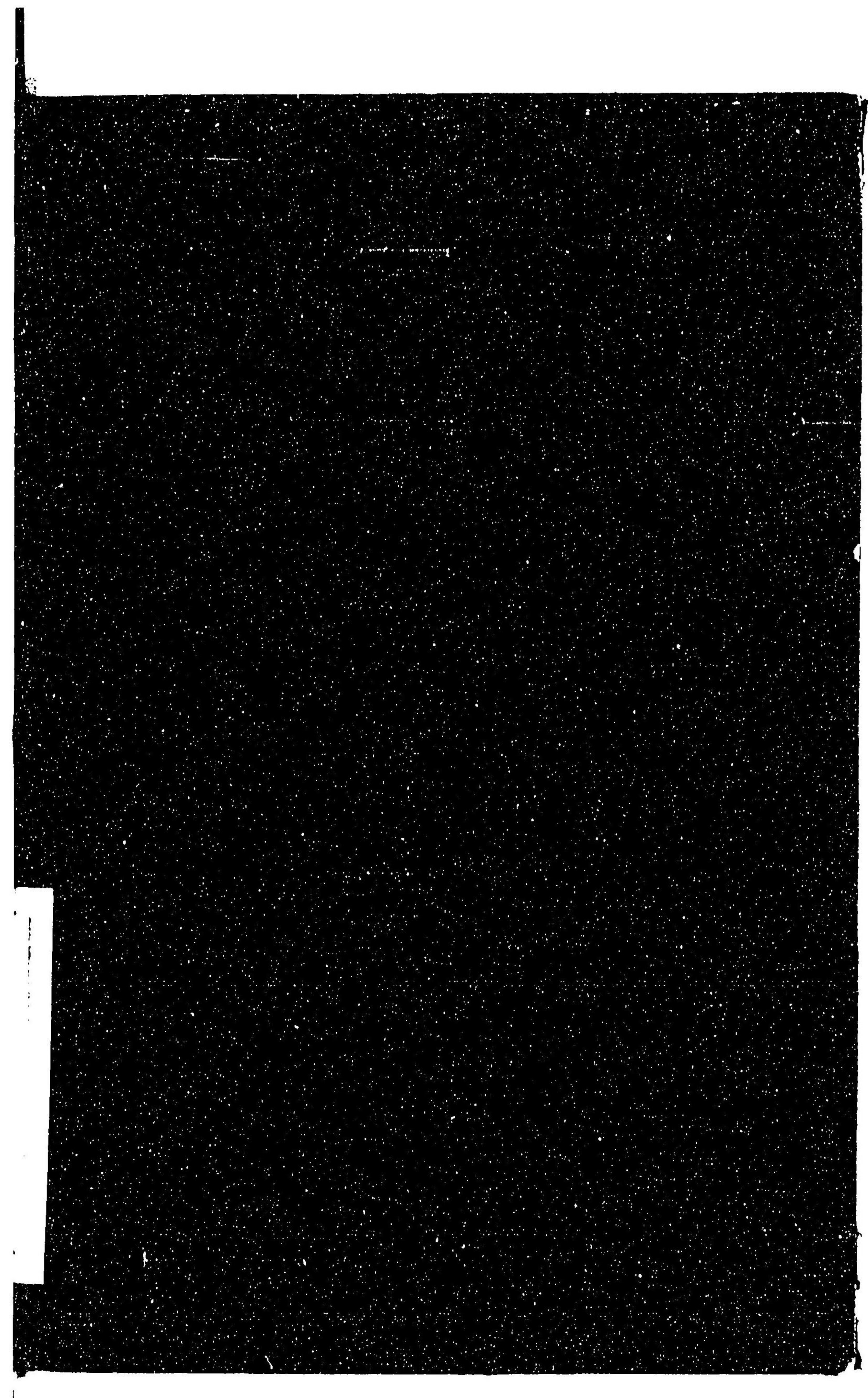
SOLD EVERY WHERE.



製造部特價品粧化園索
トシゼス一唯

店支阪大賞陽本山中







023180-000-4

25-698

小樽案内

浪越 重隆 / 著

M41

ADC-0017



